

## 伊豆東部火山群の火山活動解説資料（令和5年11月）

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・噴煙など表面現象の状況（図1）

大原及び大崎監視カメラによる観測では、噴煙などの表面現象は認められません。

#### ・地震や微動の発生状況（図2、図3-①）

19日頃に初島から北北西に約4km離れた領域を震源とする地震が一時的に増加しました。この地震増加に伴う火山活動の活発化は認められていません。そのほか、伊豆東部を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されていません。

#### ・地殻変動の状況（図3-②~⑧、図4）

地殻変動観測では、火山活動によるとみられる特段の変化は認められません。



左図：大原監視カメラ（11月20日） 右図：大崎監視カメラ（11月20日）

図1 伊豆東部火山群 伊東市沖の状況

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

次回の火山活動解説資料（令和5年12月分）は令和6年1月12日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています。

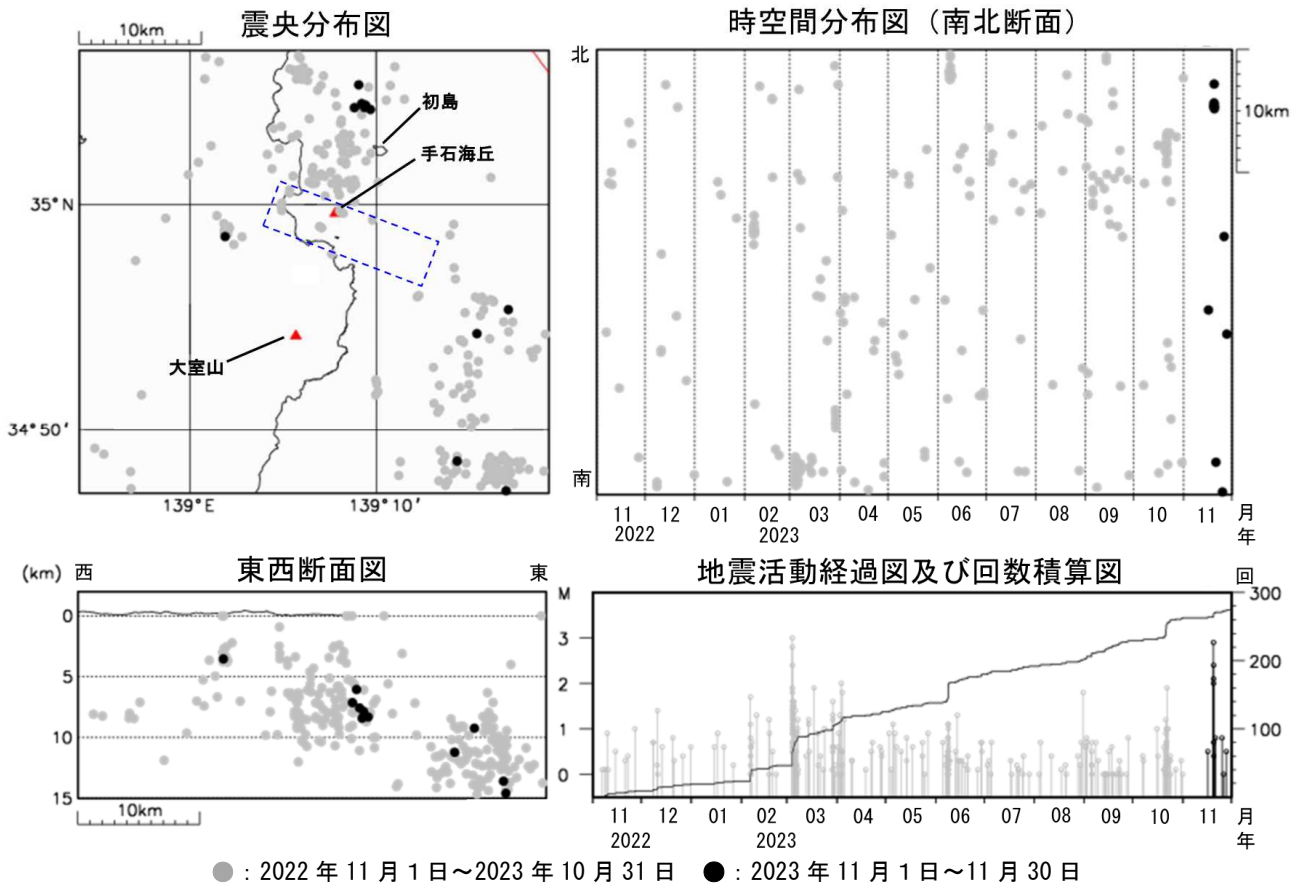


図2 伊豆東部火山群 広域地震観測網による震源分布図（2022年11月1日～2023年11月30日）  
 □の領域は群発地震活動の発生する可能性がある範囲（火口が出現する可能性のある範囲）を示しています。  
[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/level/PDF/level\\_316.pdf](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/level/PDF/level_316.pdf)  
 広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。  
 M（マグニチュード）は地震の規模を表し、M0.0以上を表示しています。  
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。  
 この図では、関係機関の地震波形を一元的に処理し、地震観測点の標高を考慮する等した手法で得られた震源を用いています。

- ・伊豆東部火山群付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しました。
- ・19日頃に初島から北北西に約4km離れた領域を震源とする地震が一時的に増加しました。
- ・19日20時57分に発生した地震で、熱海市網代で震度1を、同日21時41分に発生した地震で、熱海市泉で震度1を観測しました。

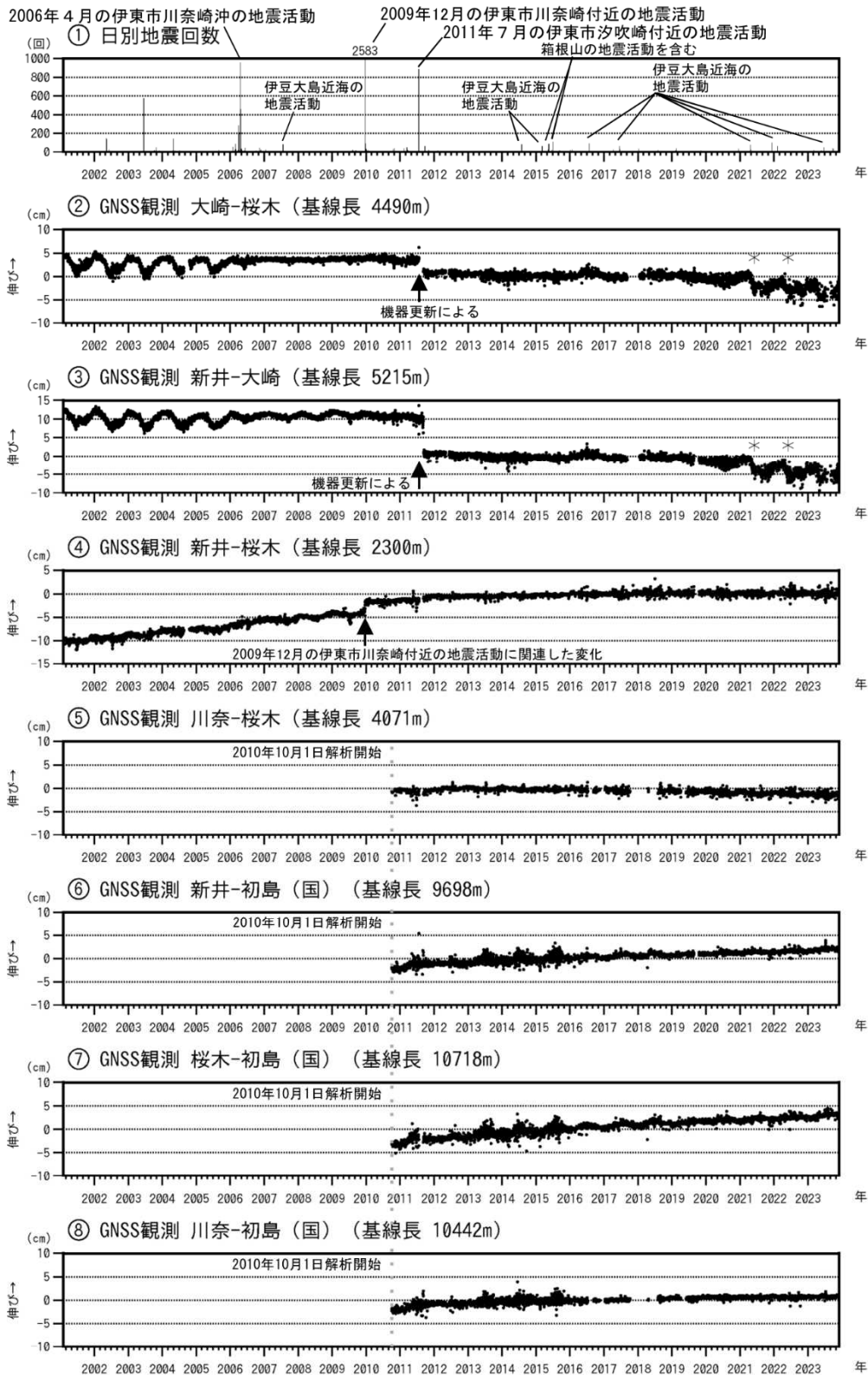


図3 伊豆東部火山群 火山活動経過図 (2001年2月1日~2023年11月30日)

②~⑧は図4のGNSS基線②~⑧に対応。(国): 国土地理院。グラフの空白部分は欠測を示します。

2010年10月及び2016年1月以降のデータは解析方法を変更しています。

基線長変化に見られる周期的な変動は季節変動と考えられます。

②③のGNSS基線でみられる変化(\*)は、大崎観測点に起因する変化であり、火山活動によるものではないと考えられます。

・GNSS連続観測では、火山活動によるとみられる特段の変動は認められません。

